

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察特殊報（第 1 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 24 年度 病害虫発生予察特殊報（第 1 号）平成 25 年 3 月 4 日
愛 媛 県病害虫名 ヤノネカイガラムシ (*Unaspis yanonensis*)

作 物 ユズ

特殊報の内容 愛媛県におけるユズでの発生の初確認

- 1 発生地域 内子町
- 2 発生経過

平成24年11月に内子町のユズ果実に寄生するカイガラムシ（写真1）が確認された。鳥取県立博物館の田中宏卓博士に同定を依頼したところ、ヤノネカイガラムシであることが判明した。その後の調査で、内子町内の3園地で発生を確認した。本種は、カンキツ類では一般的な害虫であり、本県および全国各地のカンキツ栽培地帯に分布する。しかし、ユズは本種に対して抵抗性を有するため本種が正常に発育できないとされていた。なお、県下の内子町以外のユズ産地での発生は未確認である。

- 3 他県での発生状況等

ユズでの本種の発生は全国的にも確認されていない。

- 4 形態

雌成虫の介殻は紫褐～灰紫褐色、体長2.5～3.5mm程度で、矢の根型をしている（写真2）。介殻下の虫体は2～2.3mm程度で黄色であるが、成熟すると橙褐色となる。雄は白い綿状のロウ物質を分泌し（写真3）、蛹期を経て1対のハネを持った成虫となり飛翔する。

- 5 被害状況

葉や枝に多数寄生すると、早期落葉とともに小さい枝から枯死し（写真4）、激発した場合は樹全体が枯死することがある。果実に寄生すると、外観品質の低下により商品価値が著しく低下する。

- 6 生態

カンキツ類にのみ寄生し、主に成虫態で越冬して年3回発生する。産卵は介殻下で行われ、数時間後には孵化し、幼虫は介殻から這い出て歩き回る。その後、適当な場所で口針を植物組織に刺しこみ定着し、雌は移動することはない。第1世代の幼虫は5月上・中旬頃に発生し始め、2齢を経て成虫となる。成虫に達するまでの期間は45～60日程度である。第2世代幼虫は7月中・下旬頃、第3世代は9～11月に発生するが、第3世代の発生量は少ない。

- 7 防除対策

1) 冬期にマシン油乳剤を散布する。

2) 生育期にはカイガラムシ類やヤノネカイガラムシに適用のある薬剤を散布する。ただし、成虫に対する防除効果は低いため、必ず幼虫期に行く。一般的なカンキツ栽培地域での防除適期は第1世代が6月上・中旬頃、第2世代が8月中・下旬頃である。

3) 今回ヤノネカイガラムシが確認されたユズ園でも、一般的なカンキツ園でみられるヤノネカイガラムシの導入天敵（ヤノネツヤコバチ）の寄生を確認している。この天敵の防除効果は高いことから、ヤノネカイガラムシ発生園では不用意な薬剤散布は控え、天敵の保護を図る。

- 8 参考資料

河合 省三（1980）：日本原色カイガラムシ図鑑，全国農村教育協会，東京。

福田 仁郎（1952）：ヤノネカイガラムシに対する柑橘の抵抗性に関する研究，東海近畿農業試験場研究報告園芸第1号：128-141。



写真1 ヤノネカイガラムシ寄生果 (ユズ)



写真2 雌成虫

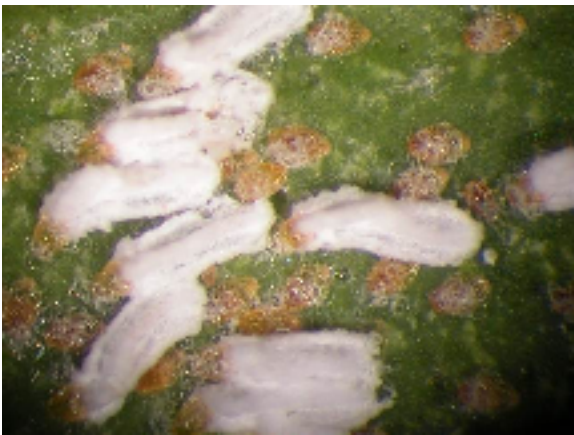


写真3 雄1齢幼虫 (橙色の個体) と
雄2齢幼虫 (白色綿状の個体)



写真4 枝枯れ被害 (ユズ)